

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190600108		
法人名	株式会社 サンライズ		
事業所名	グループホーム ゆつつらーと		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字富岡10101-3番地		
自己評価作成日	令和5年1月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年1月20日	外部評価確定日	令和5年2月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>新型コロナウイルスの流行により、入居者様ご家族や地域の方々との交流、施設内での行事や活動など思うように実施できない状況です。そのような状況ながらも、入居者様に刺激のある生活を送っていただき認知症の進行防止となるよう、職員それぞれが入居者様と密にコミュニケーションをとるよう心掛けています。入居者様の得意とされていることや好まれていることを把握し、それらを活かした作業や活動をおこなうことで楽しみのある生活を送っていただけるよう努めています。 ご家族様との交流も継続できるよう、リモート面会を実施したり近況報告の連絡もおこなうようにしています。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所を家庭の延長だと考え、ケアに励む職員がいる。そんな職員を信頼し任せ、もっと伸ばしたいと考える管理者もいる。家族アンケートに寄せられた苦言を真摯に受け止め、未曾有のコロナ禍ではあるが、家族との会話や説明が不十分であったと反省もある。不器用な中に実直さが窺える事業所である。利用者のペースを大切にしながら、一対一で関わる時間が取れるよう努めている。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立・快適・安心をモットーとして、自分のペースで・自分らしく・快適に・安心して生活していただけるように支援する。	自立・快適・安心をモットーとして、自分のペースで・自分らしく・快適に・安心して生活していただけるように支援する。	理念は、開設当初の職員によって考えられたものである。見直しが検討されることもあったが現在に至っている。玄関に掲示することで、訪れる方々にも意志の表明となっている。職員会議等でも折に触れ話題とし意識付けを図っている。利用者の様子で気になる事や、ケアの在り方等は随時話し合っており、掲げた理念が浸透しているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により交流は控えているが、地域の回覧板を回してもらい、地域の情報がとれるようにしている。散歩の際に近所の方と会話したり、花などを頂くこともある。現在では保育園児との交流やボランティアの受け入れは中止している。	コロナの影響により交流は控えているが、地域の回覧板を回してもらい、地域の情報がとれるようにしている。散歩の際に近所の方と会話したり、花などを頂くこともある。現在では保育園児との交流やボランティアの受け入れは中止している。	自治会に加入しており回覧板も回され、地域の細かい情報は得られている。地区の清掃活動には参加できていないが、事業所周辺の掃除は日頃から心掛けている。コロナ禍では祭り等の行事で交流することは叶わないが、散歩の途中で挨拶や立ち話はある。介護に関するお尋ねには専門知識を活かし答えており、近隣住民には話しやすい拠り所となっている。非常事態には応援も頼める関係へと繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症についての理解を深めていただけるよう情報交換をおこなっている。	運営推進会議にて認知症についての理解を深めていただけるよう情報交換をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナの影響により会議開催を見合わせている。運営状況や行事等の施設の情報を発信するため、会議資料を作成し関係者の方々に配布している。会議資料は施設玄関に設置しており誰もが閲覧可能な状態にしている。	現在はコロナの影響により会議開催を見合わせている。運営状況や行事等の施設の情報を発信するため、会議資料を作成し関係者の方々に配布している。会議資料は施設玄関に設置しており誰もが閲覧可能な状態にしている。	自己評価でも、この会議を通して地域との繋がりや深まりが少しずつ増えていると答えていただけに、コロナ禍の影響は大きく残念な想いが窺える。今年度、これまでに対面で開催できた会議はない。資料を手渡しや郵送により届けることを以って運営推進会議としている。通常であれば事業所を訪れ、地域の方も含むメンバーからは様々な意見をもらい、それをサービス向上に活かすというのがこの会議の趣旨であった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催時には市町村の担当者に出席をお願いしている。また施設入居についての問い合わせや相談を受けることもあり、都度情報交換をおこなっている。	運営推進会議の開催時には市町村の担当者に出席をお願いしている。また施設入居についての問い合わせや相談を受けることもあり、都度情報交換をおこなっている。	運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から顔馴染みである。問い合わせ等があればまず電話を掛け、内容によっては直接出向いている。行政側には話もしやすく、協働関係は築いている。また介護相談員の来所もあり、一時間程の滞在をし、利用者との会話で気付きを伝えてくれたが、現在は自粛中である。事業所との橋渡し役として今後も期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月と、検討会を2か月に1回実施し、身体拘束解消のため職員間で検討している。やむを得ず身体拘束をおこなう場合は家族に説明をおこない、同意を得た場合のみ実施している。(毎月説明をおこない署名をいただいている。)	身体拘束委員会を毎月と、検討会を2か月に1回実施し、身体拘束解消のため職員間で検討している。やむを得ず身体拘束をおこなう場合は家族に説明をおこない、同意を得た場合のみ実施している。(毎月説明をおこない署名をいただいている。)	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容やその弊害まで理解しており勉強会もある。現在、ベッド柵の実施例があるが、安全面や危険防止、また家族の承諾を理由に正当化することなく、止めるための工夫や方法が話し合われている。玄関に施錠はなく、職員が目配りや気配りによって安全で自由な暮らしが支援されている。仮に不適切なケアが見られた場合は、その場で間に入り、望ましいケアをやってみせている。本人が感じ、気付かせる狙いがあるが、ケースによっては全体の事として注意喚起をしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を毎月実施し、また施設内でも勉強会をおこなっており、高齢者虐待への理解を深めている。	高齢者虐待防止委員会を毎月実施し、また施設内でも勉強会をおこなっており、高齢者虐待への理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの影響により外部の研修会への参加を控えているため、施設内での勉強会にて理解を深めるようにしている。	コロナの影響により外部の研修会への参加を控えているため、施設内での勉強会にて理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書にて分かりやすく説明するように心がけている。内容の変更時には文書で通知している。	契約書・重要事項説明書にて分かりやすく説明するように心がけている。内容の変更時には文書で通知している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画作成時や来訪時に意見や要望をたずねている。職員が電話等で家族へ近況報告をおこなうこともある。要望などは職員間で共有、検討しサービスに反映している。	介護計画作成時や来訪時に意見や要望をたずねている。職員が電話等で家族へ近況報告をおこなうこともある。要望などは職員間で共有、検討しサービスに反映している。	コロナ禍では面会も規制せざるを得ない状況である。玄関先で事務室との窓越し、または距離をとったの対面である。事業所では、毎月の利用料を送付する際にゆつつら～と新聞を同封しているが、ユニットによっては更に手書きの近況も添えている。利用者家族からは、コロナ禍での職員の奮闘に感謝しつつも、面会の緩和や残存能力の低下を危惧する意見が寄せられている。送付する新聞に近況を書き添える欄を設ける案、情報を職員間で共有する方法の見直し等も挙げられている。忙しい事を言い訳にせず、家族への丁寧な説明が不足していたと反省も聞かれた。出された意見や、出せずにいる意見にも想いを馳せ、前向きに活かそうとする姿勢が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、本部担当者も職員会議に参加したり個別で話をする機会を設けており、情報交換や意見・要望を聞いている。	毎月職員会議を実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、本部担当者も職員会議に参加したり個別で話をする機会を設けており、情報交換や意見・要望を聞いている。	毎月の職員会議は2ユニット合同で行い、概ね60分を要し、休みの職員出席は本人の判断に任せている。利用者毎のカンファレンスは随時行っているが、この場で諮ることもある。法人本部からの事、各ユニットの事をメインに、職員からは活発な発言を望んでいる。また管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、日頃から職員とのコミュニケーションは大切にしている。職員の様子が気になれば周囲にそれとなく尋ねてみたり、個人への立ち入り具合にも配慮が窺える。定時での帰宅を促し、休暇希望には全て応えており、現場の声は法人の上席へ確実に届けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場環境・条件の整備に努力している。こまめに管理者や職員との面会の機会を持ち、意見や要望を聞き取り反映させるように努めている。	代表者は、職場環境・条件の整備に努力している。こまめに管理者や職員との面会の機会を持ち、意見や要望を聞き取り反映させるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響により外部研修への参加は控えているため、職員間での意見・情報交換を密におこないお互いの能力を伸ばしやすい環境づくりに努めている。	コロナの影響により外部研修への参加は控えているため、職員間での意見・情報交換を密におこないお互いの能力を伸ばしやすい環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県認知症グループホーム協会に入会しており、情報交換が出来る様になっている。	佐賀県認知症グループホーム協会に入会しており、情報交換が出来る様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居についての相談を受けた後、入居前に自宅や施設を訪ね本人にお会いし、現在の困りごと等聞きながら信頼関係の構築に努めている。	入居についての相談を受けた後、入居前に自宅や施設を訪ね本人にお会いし、現在の困りごと等聞きながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に管理者及び計画作成担当者が現状の家族の負担や困りごと等を聞き、事業所のサービス内容や費用について説明をおこなっている。	入居相談時に管理者及び計画作成担当者が現状の家族の負担や困りごと等を聞き、事業所のサービス内容や費用について説明をおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、様々な選択肢があることを説明し、最も必要と思われるサービスの提案・紹介をおこなっている。	相談内容によっては、様々な選択肢があることを説明し、最も必要と思われるサービスの提案・紹介をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に毎日の洗濯物作業や食器洗い等の家事作業をおこなっている。利用者同士がお互いをいたわり合う雰囲気も出来ており、利用者個々の出来ることや得意としていることを新しく発見出来ることもある。	利用者と共に毎日の洗濯物作業や食器洗い等の家事作業をおこなっている。利用者同士がお互いをいたわり合う雰囲気も出来ており、利用者個々の出来ることや得意としていることを新しく発見出来ることもある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者とその家族の関係や気持ちを傾聴し、悩みや喜びを共感できるよう日頃の様子を来訪時や電話、施設新聞等にて報告している。コロナの影響により面会の制限もおこなっているが、電話やリモート面会の実施、手紙のやりとりで家族との関係が途切れないように努めている。	利用者とその家族の関係や気持ちを傾聴し、悩みや喜びを共感できるよう日頃の様子を来訪時や電話、施設新聞等にて報告している。コロナの影響により面会の制限もおこなっているが、電話やリモート面会の実施、手紙のやりとりで家族との関係が途切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴や人間関係の把握に努め、普段の会話の中で馴染みの場所や知人・友人の思い出話をしている。コロナの影響により外出は限られてしまうが、ドライブに出かけた際は馴染みの場所にも行けるようにしている。	これまでの生活歴や人間関係の把握に努め、普段の会話の中で馴染みの場所や知人・友人の思い出話をしている。コロナの影響により外出は限られてしまうが、ドライブに出かけた際は馴染みの場所にも行けるようにしている。	入居までの人間関係の把握には、本人や家族、また担当のケアマネジャーや利用していたサービス事業所にも話を聞き情報を集めている。ケースによっては病院のソーシャルワーカーに尋ねることもある。それらを基に具体的な例として盆正月の帰宅や墓参りなどが支援されていたが、コロナ禍では自粛を余儀なくされている。そのような状況でも、特別な日だからと家族のたつでの願いで、短時間だが外出を楽しんでもらった例もある。事業所ではリスクを考慮しつつ、最善の策を探りながら応えている。また電話はいつでも可能であり、携帯電話を所持している方もいて、リモート面会も併せて関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席の位置等に配慮している。職員は利用者同士の間に入り、話題を提供してより良い雰囲気でのコミュニケーションをとってもらえるよう努めている。	利用者同士の関係を把握し、席の位置等に配慮している。職員は利用者同士の間に入り、話題を提供してより良い雰囲気でのコミュニケーションをとってもらえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の家族から連絡があったり、施設から近況をたずねることもある。	退所された利用者の家族から連絡があったり、施設から近況をたずねることもある。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中でも利用者の思いや意向を把握するよう努め、職員間で情報を共有している。意思疎通の困難な方は、家族からの情報や、本人の普段の言動や表情等から意向を汲み取るよう努めている。	日常生活の中でも利用者の思いや意向を把握するよう努め、職員間で情報を共有している。意思疎通の困難な方は、家族からの情報や、本人の普段の言動や表情等から意向を汲み取るよう努めている。	日々の関わりの中で、利用者との会話ではまず目線を合わせる事、スキンシップ、選択肢を示す問い掛け方等々を心掛けている。想いを話してくれるのは入浴中の寛いだひとときや居室を訪ねた時など、一対一の時に多い。お気に入りの職員を待つ方もいる。聞き取った事は職員が返した言葉も含め、口頭や介護記録等に記すことで共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。前回の当外部評価後に「ひとりひとりを理解するよう努め、個々のペース・個々の言葉かけを適切なものに」と目標を掲げ、具体的な取り組み後の成果は7~80点位と自己には厳しい評価をしている。更に継続して意識していくためにという想いが窺える。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人・家族からの聞き取りにて状況把握に努めている。1度や2度の聞き取りだけでは見えてこない部分もあるため、随時聞き取りをおこなっており、日常会話の中でも情報把握に努めている。	利用者本人・家族からの聞き取りにて状況把握に努めている。1度や2度の聞き取りだけでは見えてこない部分もあるため、随時聞き取りをおこなっており、日常会話の中でも情報把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの1日の過ごし方を観察し、本人の出来ること・出来ないことや心身の状態を把握し、個々のペースに合わせてのケアに努めている。	利用者それぞれの1日の過ごし方を観察し、本人の出来ること・出来ないことや心身の状態を把握し、個々のペースに合わせてのケアに努めている。			



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意向や意見、かかりつけ医の意見、介護職員や看護職員等ケアに関わる方の意見を聞きながら計画作成している。本人の状態や心身の変化に応じて随時ケアの見直しをおこない、カンファレンスでは夜勤専門の職員や調理担当の職員からも意見や情報をもらい、計画作成に反映している。	利用者・家族の意向や意見、かかりつけ医の意見、介護職員や看護職員等ケアに関わる方の意見を聞きながら計画作成している。本人の状態や心身の変化に応じて随時ケアの見直しをおこない、カンファレンスでは夜勤専門の職員や調理担当の職員からも意見や情報をもらい、計画作成に反映している。	入居して間もない時期は2カ月毎に見直し、徐々に落ち着けば6カ月毎になる。その間に変化があれば臨機応変な対応もある。利用者の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。家族からは残存能力の維持を願う声も聞かれる。歳を重ねる毎に身体機能の低下は否めない。またコロナ禍で行動範囲も制限される中、職員の日々のケアの積み重ねが低下を緩やかなものとしているのが利用者の現状に垣間見える。モニタリングに決まった期日はないが、管理者と計画作成者により日々の介護記録を参考に現状分析を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録について、計画作成担当者は利用者への大切なアセスメントとして位置づけ、情報収集にも活用している。	介護記録について、計画作成担当者は利用者への大切なアセスメントとして位置づけ、情報収集にも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や、利用者本人・家族の意向を汲んで、臨機応変な対応を心掛けている。	その時々状況や、利用者本人・家族の意向を汲んで、臨機応変な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2～3か月に1度地域の理髪店に訪問していただき散髪をお願いしている。また、市外の病院受診の際に介護タクシーを利用することもある。また防災に関する連携として、避難場所を近隣のお寺にお願いしたり、地域の消防団との連携をとっている。	2～3か月に1度地域の理髪店に訪問していただき散髪をお願いしている。また、市外の病院受診の際に介護タクシーを利用することもある。また防災に関する連携として、避難場所を近隣のお寺にお願いしたり、地域の消防団との連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居後の主治医の変更は利用者と 家族の意向に沿っているが、状況に 応じてこちらから提案することもある。 以前のかかりつけ医からの情報 提供もスムーズに行えている。月2 ～3回の定期往診のほか、異常時 には随時相談や受診をし適切な医 療を受けられるよう支援している。	入居後の主治医の変更は利用者と 家族の意向に沿っているが、状況に 応じてこちらから提案することもある。 以前のかかりつけ医からの情報 提供もスムーズに行えている。月2 ～3回の定期往診のほか、異常時 には随時相談や受診をし適切な医 療を受けられるよう支援している。 現在の病状を考慮し、以前のかかり つけ医のまま変更していない方もお られる。	入居をきっかけに協力医をかかりつ けとした方が殆どである。説明を受 け納得しての変更である。また昔か らの馴染みの医師の元へ通う方も あり、病歴等を知ってもらっている 安心感がある。他科受診の際には 行きつけや希望先を尋ねており、適 切な医療へと繋いでいる。持病など は今後どのような経過が予想される か、入居時に伝えておくことで家族 にも理解が得やすく、必要であれば 医師からの説明もある。ケアプラン へも連動するため状況説明はきち んで行っている。受診には職員が付 き添っているが、定期受診や結果に 異常がなければ家族への報告は後 日となる。急な受診であれば、その 前後で必ず家族へ連絡を取り、適 切な支援を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用 者が適切な受診や看護を受けられるよう に支援している	介護士と看護師で日々の情報交換 や相談をおこない、状態変化の早期 発見、早期対応に努めている。看護 師の出勤日以外や夜間帯でも連絡 がとれるようにしており、状況に応じ て電話での指示を受けたり、看護師 が駆け付け対応することもある。	介護士と看護師で日々の情報交換 や相談をおこない、状態変化の早期 発見、早期対応に努めている。看護 師の出勤日以外や夜間帯でも連絡 がとれるようにしており、状況に応じ て電話での指示を受けたり、看護師 が駆け付け対応することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行ってい る。	利用者が入院する際の医療機関へ の情報提供をおこない、面会や電話 で様子を尋ね情報の把握をおこなっ ている。退院時は医療機関、家族と 相談し退院後の受け入れがスムー ズにおこなえるよう調整している。	利用者が入院する際の医療機関へ の情報提供をおこない、面会や電話 で様子を尋ね情報の把握をおこなっ ている。退院時は医療機関、家族と 相談し退院後の受け入れがスムー ズにおこなえるよう調整している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合における対応に関わる指針について、入居時に家族に説明し同意を得ている。緊急対応協力機関：新武雄病院	利用者が重度化した場合における対応に関わる指針について、入居時に家族に説明し同意を得ている。緊急対応協力機関：新武雄病院	事業所では看取りは行っていない。入居契約時にその指針を説明し、家族とは共有を図っている。食事が入らないなど体調の変化がきっかけとなり、今後の選択肢も含めて、話し合いは何度でも重ねる事としている。本人や家族が安心して納得した終末期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	武雄消防署員より応急手当についての研修を受けている。夜間の緊急マニュアルも整備している。AEDも準備しており、使用方法の研修も随時おこなっている。	武雄消防署員より応急手当についての研修を受けている。夜間の緊急マニュアルも整備している。AEDも準備しており、使用方法の研修も随時おこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練及び消火訓練や、地震や水害等自然災害に対する訓練を年2回必ず実施している。火災訓練での避難場所は近隣のお寺に協力をお願いしている。地域の方々から避難時の協力の申し出もあっている。 防災委員の職員が市の指定避難場所を見学、説明を受けに出向いて情報の把握にも努めている。	火災の避難訓練及び消火訓練や、地震や水害等自然災害に対する訓練を年2回必ず実施している。火災訓練での避難場所は近隣のお寺に協力をお願いしている。地域の方々から避難時の協力の申し出もあっている。 防災委員の職員が市の指定避難場所を見学、説明を受けに出向いて情報の把握にも努めている。	年2回の避難訓練では薄暗くなる時間帯にも行っている。夜勤とみなした職員のみで初期対応を試み、実践的な訓練となっている。利用者も一緒に避難を体験し、坂の上にある寺を一時避難場所としてお願いしている。火災時には最終的に落ち着く場所が必要で、市内の同法人施設が挙げられ、併せて家族への周知も検討される。居室内にドアを塞ぐような家具の配置はなく、利用者の退避済みは人数を数える事で確認している。職員は消火器や通報装置の使い方も承知しており、非常食や水、寒さを凌げる物の備蓄もある。しかし、職員のみでの避難には限界がある事を踏まえ、今後は協力の申し出がある近隣住民への参加依頼も検討課題である。訓練後にはその場で反省点などを挙げ、改善策は全員に周知される。またハザードマップでは土石流エリアとなり、自然災害は確実な情報察知と早めの避難が重要であることも承知している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者個々のプライバシーや羞恥心に配慮し、利用者それぞれに適した声掛けや介助を心がけている。	職員は利用者個々のプライバシーや羞恥心に配慮し、利用者それぞれに適した声掛けや介助を心がけている。	トイレや入浴の介助は最も配慮が求められる場面である。入居して間もない時期は同性によるケアが良いのか、様子をみながら臨機応変に対応している。近くに寄り小声で誘導したり、トイレのドアは確認時でも気遣いがみられる。また個人情報の取り扱いに関して職員の意識は高く、ホームページや新聞等への写真掲載は入居時に承諾を得ており、職員間で業務上のやり取りを行う際にも声の大きさには注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の意思を尊重し、日常生活の中の小さなことでも自己決定が出来るように支援している。	利用者本人の意思を尊重し、日常生活の中の小さなことでも自己決定が出来るように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで、自分らしく快適に安心して生活していただけるよう努めている。	利用者が自分のペースで、自分らしく快適に安心して生活していただけるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や外出時の服装、普段の衣服の組み合わせ等にも気を配るよう心掛けている。自己決定が出来る利用者にはどの衣服を着用するか、ご自身で決めていただくこともある。	朝の整容や外出時の服装、普段の衣服の組み合わせ等にも気を配るよう心掛けている。自己決定が出来る利用者にはどの衣服を着用するか、ご自身で決めていただくこともある。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の好き嫌いや食事のとり方の把握に努めている。食事形態も個々に合わせて提供している。栄養士が考えた季節感のあるメニューや季節のイベントに応じたメニューを取り入れている。 利用者のなかには食器洗いやお盆拭き、テーブル拭きをしてくださる方もいる。	利用者個々の好き嫌いや食事のとり方の把握に努めている。食事形態も個々に合わせて提供している。栄養士が考えた季節感のあるメニューや季節のイベントに応じたメニューを取り入れている。 利用者のなかには食器洗いやお盆拭き、テーブル拭きをしてくださる方もいる。	献立は法人本部の栄養士が作っている。利用者の好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な食材や献立には代替えもある。介助が必要な方もいるが、なかなか箸が進まない方には声を掛けて促し、出来るだけ自分で口へ運んでもらえるよう支援している。軽めの食器や形状にも配慮し利用者の食欲は良好である。コロナ禍前には職員も一緒に持参の弁当を広げる様子が見られたが、現在は感染拡大防止の観点から見守りで同席している。また誕生日は当日、または月でまとめることはあるが、ケーキなどを用意しみんなで祝っている。栄養価や水分摂取のチェックに加え、月一回の体重測定もあり体調を押し量る目安となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により1日1600Calで献立が作成されている。個々の食事や水分摂取量を毎日チェックしており、適度な食事及び水分の確保が出来るよう支援している。 水分摂取量が少ない方には、ご本人が好まれている飲み物を個人で購入し提供することで水分補給が出来るよう配慮している。	栄養士により1日1600Calで献立が作成されている。個々の食事や水分摂取量を毎日チェックしており、適度な食事及び水分の確保が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き支援をおこなっている。義歯を使用されている方は、夜間帯に義歯を預り洗浄剤につけている。ご自分で十分に歯磨きが出来ない方は職員が仕上げ磨きをおこなう。	毎食後、歯磨き支援をおこなっている。義歯を使用されている方は、夜間帯に義歯を預り洗浄剤につけている。ご自分で十分に歯磨きが出来ない方は職員が仕上げ磨きをおこなう。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、時間でのトイレ誘導や、利用者の行動により排泄のタイミングを図り誘導をおこなっている。 自力でトイレへ移乗ができない方も、職員が移乗介助をすることでなるべくトイレでの排泄が継続できるよう対応している。	利用者個々の排泄パターンを把握し、時間でのトイレ誘導や、利用者の行動により排泄のタイミングを図り誘導をおこなっている。 自力でトイレへ移乗ができない方も、職員が移乗介助をすることでなるべくトイレでの排泄が継続できるよう対応している。	排泄に関して自立している方は多いが、任せたままでなく、さりげない見守りを行っている。入居後には、排泄パターンの把握によって効果も表れている。誘導のタイミングが図れることでオムツ・パット類の使用枚数減やサイズダウンとなり、費用負担の軽減に繋がった方もある。日々のケアが功を奏した一例である。トイレ内は車椅子利用であっても十分な広さがあり、手すりやひじ掛けは自立を促す補助具として役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、水分補給や適度な運動、下剤も使用しながら排便コントロールをおこなっている。 便の症状に応じて看護師と相談の上、下剤の調節もおこなっている。	排便の有無を毎日確認し、水分補給や適度な運動、下剤も使用しながら排便コントロールをおこなっている。 便の症状に応じて看護師と相談の上、下剤の調節もおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴の機会を基本として設けている。利用者の希望や体調に応じて入浴のタイミングに配慮している。入浴拒否があった場合も時間や日にちを変更し対応している。	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴の機会を基本として設けている。利用者の希望や体調に応じて入浴のタイミングに配慮している。入浴拒否があった場合も時間や日にちを変更し対応している。	入浴日は概ね決まっているが、汚染等があればその都度対応している。ひとりずつゆっくりと寛いでもらう中で想いを話してくれる方もある。拒む方は少ないが、タイミングを変えるなど職員のテクニックも活かし臨機応変なケアである。転倒防止の手すりや、冬場は脱衣場から浴室側へ暖気を送りヒートショック対策としている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで好きなタイミングで休息してもらっている。状況に応じてこちらから休息の時間を設けることを提案することもある。休息される際の居室内の室温等の環境にも気を配っている。	自分のペースで好きなタイミングで休息してもらっている。状況に応じてこちらから休息の時間を設けることを提案することもある。休息される際の居室内の室温等の環境にも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主に看護師が管理し、服薬方法や副作用等について職員に説明をおこなっている。管理についてはマニュアルを作成し事故防止に努めている。誤薬事故が発生した場合は看護師、主治医へ報告し、医師より指示を貰い対応するようにしている。	主に看護師が管理し、服薬方法や副作用等について職員に説明をおこなっている。管理についてはマニュアルを作成し事故防止に努めている。誤薬事故が発生した場合は看護師、主治医へ報告し、医師より指示を貰い対応するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の力量の把握に努め、その人に合わせた役割づくりをおこなっている。利用者個々の趣味への関心を示しサポートしている。職員と共に壁面飾り等の作品を制作される方もいる。	利用者個々の力量の把握に努め、その人に合わせた役割づくりをおこなっている。利用者個々の趣味への関心を示しサポートしている。職員と共に壁面飾り等の作品を制作される方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見等の季節を感じられるような外出支援をおこなっている。また、天気が良い日には施設敷地内での外気浴や近所への散歩、ドライブに出掛けたりされている。家族と共に短時間のドライブに出掛けられる方もいる。	花見等の季節を感じられるような外出支援をおこなっている。また、天気が良い日には施設敷地内での外気浴や近所への散歩、ドライブに出掛けたりされている。選挙に行くことを希望された方もおり、職員が付き添って出掛けられた。	季節の花などが話題になれば利用者も興味を示すことはある。コロナ禍を乗り切ろうとする職員には希望に沿えないもどかしさも窺える。人出の多い場所への外出は自粛しているが、周辺への散歩などは日常的に支援している。日差しを浴びることや、音や匂いなど五感で感じてもらうことの大切さも承知している。車椅子利用であっても同様で、殆ど外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人で金銭を管理している方はいない。欲しいものや必要なものがある場合は家族へ連絡し購入をお願いしたり、個人の預り金より職員が購入している。	いくらかの金銭を手元に持っておられる方もおり、散歩やドライブへ出かけた際に少しの買い物をされたこともあった。その他欲しいものや必要なものがある場合は家族へ連絡し購入をお願いしたり、個人の預り金より職員が購入している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に携帯電話を持参された方もおり、好きな時に連絡を取り合っておられる。希望があれば施設の電話も使ってお話しされたり、家族や知人から電話がかかってくることも多い。家族や知人から定期的に手紙等が送られてくる方もいる。	入居時に携帯電話を持参された方もおり、好きな時に連絡を取り合っておられる。希望があれば施設の電話も使ってお話しされたり、家族や知人から電話がかかってくることも多い。家族や知人から定期的に手紙等が送られてくる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	団らんの場と食事をする場でスペースが分かれており、メリハリのある生活を送っていただくよう対応している。施設の壁を利用して壁面飾り等で季節感を出したり、利用者の作品や写真も掲示している。中央のテラスや付近の廊下で日光浴をされる方もいる。	団らんの場と食事をする場でスペースが分かれており、メリハリのある生活を送っていただくよう対応している。施設の壁を利用して壁面飾り等で季節感を出したり、利用者の作品や写真も掲示している。中央のテラスや付近の廊下で日光浴をされる方もいる。	玄関を入るとすぐに団らんの場がある。目の前に坪庭を設え、その向こうに食事の場がある。ガラス張りのためテーブルまで見渡せ、坪庭からの採光は室内を明るくしている。利用者の動線上に行動を妨げる物はない。押し車や車椅子利用であってもゆとりをもって通っている。道路脇ではあるが車の騒音も気にならない。時節柄、換気には注意を払い、利用者がいない場所の窓を開けておくのは居室も同様である。手を触れる箇所の消毒はこまめに行い感染防止に努めている。嫌な臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間を活用することにより、1人でも、気の合った利用者同士でも思い思いに過ごせる環境が出来ている。利用者個々がご自分のペースでゆっくり過ごすことが出来ている。	食堂と居間を活用することにより、1人でも、気の合った利用者同士でも思い思いに過ごせる環境が出来ている。利用者個々がご自分のペースでゆっくり過ごすことが出来ている。		



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	居室は基本的に利用者本人や家族 の好みで自由にしてもらっている。 家族の写真や馴染みの私物を持ち 込まれている方も多く、利用者が居 心地よく過ごせる居室作りに努めて いる。	居室は基本的に利用者本人や家族 の好みで自由にしてもらっている。 家族の写真や馴染みの私物、テレ ビを持ち込まれている方もおり、利 用者が居心地よく過ごせる居室作り に努めている。	火気等の危険物以外に持ち込む品 物の制限はない。各居室には整理 ダンスが備えてあり、飾り棚としても 使っている。配置や飾り方は本人と 話しながらい、居心地よく過ごして もらえるよう支援している。また収納 に役立つクローゼットもあり、四季分 の衣類を持っている方や日常の整 理整頓に役立っている。寝具はレン タルで、週一回のリネン交換もあり 清潔に保たれている。夫婦で入居し ているケースでは、2つの居室を寝 室用と居間用で使い分け、共に過ご している。工夫しながら本人の希望 に応えた例である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	自立歩行や車椅子を自走できる方 に配慮し安全な動線の確保に努め ている。居室やトイレの場所が把握 できるよう、目印を付けているところ もある。	自立歩行や車椅子を自走できる方 に配慮し安全な動線の確保に努め ている。居室やトイレの場所が把握 できるよう、目印を付けているところ もある。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○		1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○		1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○		1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○		1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない